

杉並区立済美養護学校 中学部 2 年生 博物館出前講座 実施要領

1. 受講生徒 : 中学部 2 年生 15 人 (普通学級 12 人・重度重複学級 3 人)
2. 実施日時 : 2019 年 6 月 10 日 (月曜)
10 時 35 分 ~ 11 時 25 分 / 11 時 30 分 ~ 12 時 20 分、(50 分×2 コマ)
3. 講座のテーマ : 土の中からでてきたよーむかしの道具の土器、そして博物館ー
4. 講座のねらいと展開 (生活単元学習に位置づけて)

(1) 講座のねらい

- a, 実物の土器 (縄文および奈良時代の土器) をさわって、五感を使って楽しく観察することができる。
- b, 土器を生活道具としてイメージすることができる。
- c, 貝殻や竹管を使い、縄文土器のように粘土に模様をつけることができる。
- d, 土器が展示されている博物館という存在を意識し、記憶に残すことができる。

(2) 講座 - 特別授業 - の展開 (50 分×2 コマ)

【1 時間目】

配時	生徒の主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
導入① 5 分	授業の準備と始まりの挨拶 ・ 講座スタッフと挨拶する。	・ スタッフの自己紹介の後、全員で挨拶して始まりを意識させる。 * 担任が授業の開始を伝え、全員で「こんにちは」と言葉をかけあう。	・ 特別授業を受ける気持ちに切り替えることができる。
導入② 10 分	本時の目的と昔のイメージ ・ 学習内容を確認する。 1. はじめの、あいさつ 2. “どき” ってなに? 3. “どき” にさわろう 4. “どき” のように、もようをつけよう 5. “はくぶつかん” をおぼえよう 6. おわりの、あいさつ ・ むかしをイメージする。	・ 講座の流れ(内容)をホワイトボードに記しておき、見通しがもてるようにする。 ・ 古代人の衣装を着たスタッフが寸劇を行い、今とは違う時代ということが意識できるようにする。 * “どこでもドア” でタイムスリップして古代人 (古代服を着た学生) のいる時代に行く。… 一瞬消灯して空間の変化を感じさせる。 ・ イラストを使って、むかしの暮らしを意識できるようにする。 * 狩りや農作業、竪穴住居での暮らしの様子イラストを、パワーポイントで提示する。	・ 講座の目的に気付くことができる。 ・ 寸劇に反応して楽しむことができる。 ・ イラストを見て、大昔の人たちの暮らしぶりに興味をもつことができる。

<p>展開① 20分</p>	<p>土の中から土器が見つかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土器などむかしの生活道具が土中から見つかることに気付く。 ・土器を発掘する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土器の発掘の場면을教室内で再現し、関心がもてるようにする。 ＊土の入ったコンテナに古代人Aが壊れた土器片を捨て、それがやがて埋まり、現代の研究者の駒見が竹ベラで土を掘り、土器を見つける。 ・コンテナ内の土を少しずつ掘り下げ、発見の喜びがもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土器が発掘されるまでの過程に興味をもつことができる。 ・土器を丁寧に発掘することができる。
<p>展開② 15分</p>	<p>坏形土器の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良時代の坏形土器をさわって、よく見て、においもかぎ、五感で観察する。 ・坏形土器が何に使われたのかを想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土器を壊さない扱い方を寸劇で伝え、意識をもてるようにする。 ＊土器を乱暴に扱う古代人Bに×のカードを、丁寧に扱う古代人Cに○のカードを、古代人Dがそれぞれ提示する。 ・触察は講座スタッフと先生方がチームティーチングでサポートして、言葉をかけ合いながら楽しく進める。 ・坏形土器が何に使われたのか、イラストカードを使ったQ&Aで、各生徒が意見を行動で示せるようにする。 ＊解答は、食器・太鼓・帽子の三つのイラストカードを用意し、各生徒が選択して答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土器をやさしく扱うことができる。 ・触察の感想などを講座スタッフや教員に伝えることができる。 ・Q&Aで自分の意思を示すことができる。

【2時間目】

配時	生徒の主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
<p>展開③ 10分</p>	<p>縄文土器の模様の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文土器をさわって、模様を観察する。 ・縄文土器に付けられた模様の装飾方法を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文土器に模様を描く道具や方法について、生徒の想像を促すようにする。 ＊縄文土器は、前時に扱った土器よりさらに古いことも意識させる。 ・縄文土器の模様とその描き方のいろいろを、パーポイントで示して関心を深めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な模様で飾られた土器があると気付くことができる。 ・集中して説明を聴くことができる。
<p>展開④ 15分</p>	<p>粘土に模様をつける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貝殻と竹管を使い、縄文土器と同様の模様をテラコッタ粘土板に付け、装飾する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貝殻と竹管での模様付けをスタッフが実演し、やり方がわかるようにする。 ＊模様付けはスタッフと教員とのチームティーチングで行い、生徒に言葉かけをして楽しく進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貝殻や竹管の使い方により、多様な模様を描き出せることに気付き、実践できる。

		<ul style="list-style-type: none"> モノの装飾が、楽しい気持ちになることを意識できるようにする。 	
展開⑤ 10分	<p>生徒の装飾作品を鑑賞する</p> <ul style="list-style-type: none"> 模様を付けた作品を相互に鑑賞する。 昔の世界から現実の世界に思考を切り替える。 	<ul style="list-style-type: none"> 各生徒の作品を肯定的にコメントして、成功体験となるようにする。 *各生徒の作品を全員に示し、教員が一点ずつ良いところを褒め、全員の拍手でたたえる。 スタッフが古代服を脱ぎ、話題が昔から今に変わることに気付かせる。 *タイムスリップは消灯で表現。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の作品に、関心をもつことができる。 問いかけに反応することができる。
展開⑥ 10分	<p>博物館を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 昔の土器を見ることができ博物館について、意識がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 土器や昔の道具などが博物館に展示されていることをパワーポイントで示し、博物館を意識できるようにする。 *PCやスマホでできる博物館体験教材を提示し、家庭でも博物館バーチャル体験が楽しめることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の博物館の様子を写真で見て、関心をもつことができる。
まとめ 5分	<p>学習を思い出に残す</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の学習に取り組んだしるしに、土器をデザインしたストラップを受け取る。 終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各生徒にストラップを手渡しして、学習が楽しい記憶として残るようにする。 全員で「ありがとうございました」と挨拶し、授業の終了を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> お礼の気持ちを、言葉や態度で、スタッフに伝えることができる。

(3) 使用教具・機器

- 実物教材 : 土師器坏形土器、縄文土器片
- 道具など : 土の入ったコンテナ、竹べら、貝殻、竹管、テラコッタ粘土、粘土板、タオル
- 機器など : パワーポイント用 PC、プロジェクター、スクリーン、古代服、Q&Aカード